

令和5年度（2023年度）第5回東海市地域公共交通会議会議録

○会議の名称 令和5年度（2023年度）第5回東海市地域公共交通会議

○開催日時 令和6年（2024年）2月15日（木）

午後1時30分から午後3時15分まで

○開催場所 東海市役所302会議室（3階）

○出席委員 星川功（会長）、齋藤誠（副会長）、嶋田喜昭（議長）、
金森隆浩、花村元気、天野朝之、藤田和弘、小島浩資、湯浅一成、
村瀬謙治、片桐眞砂子、中西規功、大里美栄子、
安田譲、秋山和子、中村和彦、坂野正信、久野勲、宮川高彰、
桑山忍、大西彰

○欠席委員 小林裕之、水田昌孝、平岡友幸、石屋義道

○事務局 総務部長、危機管理監、交通防犯課長、同統括主任、同主任2人、
同主事

○オブザーバー 委託事業者2人、株式会社アイシン2人

○傍聴者の数 5人

○議題及び審議の概要

1. 開会のことば

2. 会長あいさつ

（会 長）

今年度で最後になるが、一年を振り返ると3月に策定予定の東海市地域公共交通計画を始め、南ルートにEVバス2台の導入、来年度のデマンド交通「チョイソコ」の実証実験に向けた準備、そして、市内循環バスのダイヤ・ルート再編について協議してきた。

また、4月には、ダイヤ・ルート再編についてのパブリックコメントを実施し、来年度の1回目の東海市地域公共交通会議にて最終の協議を図り、10月にダイヤ改正を実施する。

本日の会議では、デマンド交通の実証実験を行う為のプロポーザルについてや、市内循環バスの次期ダイヤ再編案等について、引き続き協議いただき、市内の公共交通をより良いものにしていくために、建設的な意見を頂戴したい。

3. 報告事項

(1) 前回の会議録の確認について

事務局による資料１の説明

(2) 循環バスの利用状況等について

事務局による資料２の説明

(議長) コロナ禍以降、順調に回復しているが、コロナ禍前と比べると現在何割くらいまで回復したか。

(事務局) 徐々にではあるが、７割前後まで回復した。

(委員) 乗継券が減少している理由はなぜか。

(事務局) ７５歳以上の無料で乗車できる高齢者が増加したものと考えている。

4. 協議事項

(1) 令和６年度（２０２４年度）東海市地域公共交通会議予算案について

事務局による資料３の説明

(委員) 事業費歳出のバスロケーションシステム撤去費はどのような内訳であるか。

(事務局) バスロケーションの無線機、モニター、パソコン関係のハードディスク等の撤去費である。また、撤去後については市の予算で、新たにバスロケーションシステムを設置する予定である。

(委員) 今年度の予算との主な事業費の違いは何か。

(事務局) 今年度は約１，３８３万円であり、主な事業費としては、東海市地域公共交通計画の策定が必要であったため、トーニチコンサルタントとの委託契約料が挙げられるのに対し、来年度の事業費は約１，４５７万円で、委託料の代わりに１０月からのデマンド交通実証実験に係るデマンド交通運行負担金が、主な事業費として挙げられる。

<議長による承認採決>

(一同) 承認

(2) 令和６年度（２０２４年度）循環バス無料運行の実施について

事務局による資料４の説明

(委員) 毎年、どのくらいの利用者数があるのか。

(事務局) 約１，５００人ほどである。

<議長による承認採決>

(一 同) 承認

(3) 令和6年度(2024年度)からの循環バスお盆及び年始の運行変更について

事務局による資料5の説明

(委員) 13日～15日のお盆期間中のみを休日ダイヤに設定した理由は何か。

(事務局) 運行事業者である知多バスの路線バスに合わせたためである。また、利用者の影響を最小限にしつつ、運転手の労働環境にも配慮する必要があるため、3日間のみになっている。

(委員) お盆及び年始の利用者数はどのくらいか。

(事務局) お盆は1日当たり300人から500人くらいであり、年始は1日当たり150人から300人くらいである。

<議長による承認採決>

(一 同) 承認

(4) デマンド交通「チョイソコとうかい」の実証実験の進め方について

事務局による資料6の説明

(委員) 運賃に関する設定等については、運賃等協議会で設定する必要があるのではないのか。

(運輸局) 実証実験時には、運賃等協議会を開催する必要はない。本格運行の際には、運賃等協議会の開催が必要になる。

(委員) 実証実験から本格運行への移行が前提ではあるが、何を評価指標とし、何を根拠に本格運行への移行としていくのか。

(事務局) 引き続き、検討していくことになる会員数や乗合率、鉄道駅や路線バス等への乗り継ぎ箇所数等を評価指標とし、目標値と比較する。また、循環バスの通れない狭い地域のエリアをデマンド交通の対象地域として、市民の需要等を鑑みながら、デマンド交通がその地域に必要なかどうかを検証していく。

(委員) 車両としてはハイエースでよいのか。

(事務局) 実証実験時は、ハイエースとする。今後本格運行時には、実証実験の結果も考慮し、車両のサイズ等も含めて検討していく。

(委員) 利用者はどれくらいを予定しているのか

(事務局) 半年間で約2,200人を目標値として考えている。

(委員) 運行事業者のプロポーザルを実施した際に、募集期間中に運行事業者の応募がない場合には、10月の実証実験の時期は変わるのか。

(事務局) 事前に市内のタクシー事業者に周知を行っている。また、運行事業者の募集がない場合は、再度募集をかける予定だが、現状余裕を持ったスケジュールで作成をしているため、10月の実証実験の時期については、変わる予定はないと考えている。

(会長) デマンド交通運行負担金は、地域公共交通会議がアイシンに支払うということか。また、仕様書の中にある運行受託事業者が提出する見積書の金額をアイシンが運行受託事業者を支払うのか。

(事務局) お金の流れとしては、そのとおりである。なお、1日当たりの運行経費保証額より運賃収入が下回る場合は、運行受託事業者が提出する見積書と同額となるよう不足金分を、アイシンが地域交通支援金として、運行受託事業者を支払う。

<議長による承認採決>

(一同) 承認

(5) 循環バスの次期ルート再編に伴うダイヤ編成について

事務局による資料7の説明

(委員) 統廃合することでバス停がなくなるため、少し不便に感じるがどうか。

(事務局) 統廃合するバス停については、利用者が非常に少ないため、見直しをしている。また、市内の循環バスは、概ね300m間隔でバス停を設置しているため、基本的には近くバス停まで歩ける距離に設置している。

(委員) 4月からの改善基準告示で運転手の労働時間の体制が変わるが、それを含めたダイヤ表となっているのか。

(事務局) 運行事業者との調整の上、休憩時間等も含め、ダイヤ表を設定している。

(委員) 荒尾住宅東の右回りの停車位置は、バス停がないため、利用者がわかりにくいのではないのか。

(事務局) 現在も、バス停が1箇所のみ設置箇所があるが、運転手は反対車線に利用者が待機している際、バスを一度停車する形で運用を行っており、利用者の乗り過ごしがないようにしている。また、バス停に設置

するルート図及びダイヤ表については、利用者がわかりやすいよう工夫し作成を行う。

（会 長）令和7年度中には、加木屋中ノ池駅の南側ロータリーが整備され、開業予定であるが、その際はどうか。

（事務局）ロータリーの供用開始及び養父森岡線の整備状況も確認しながら、一部路線の見直し等も必要になると考えている。

<議長による承認採決>

（一 同）承認

5 その他

東海市地域公共交通計画の資料についての報告

6 閉会のことば